

各位

会社名 FDK株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 望月 道正  
 (コード: 6955 東証第2部)  
 問合せ先 広報・IR室 芥川 淳  
 (TEL. 03-3434-1271)

「中期事業計画」(2013-2015)について

FDKグループはこの度、中期事業計画(2013-2015)を策定しましたのでお知らせ致します。

記

1. 中期事業計画(2013-2015)策定の背景

当社グループは、2009年度までに工場の閉鎖やアライアンスの推進などによる事業構造改革を進め、新たな挑戦として2010年度に前中期経営計画(START10)をスタートさせました。

初年度の2010年度は、アジア諸国の成長、各国の景気刺激策の実施などにより、ほぼ計画どおりに進んでおりました。しかしながら、2年目となる2011年度は、東日本大震災、タイ大洪水、レアアースの高騰、歴史的な円高など世界規模で事業環境は大きく変化しました。

このような中、乾電池・充電電池・リチウムイオンキャパシタなど蓄電に関するデバイスを活用し、それぞれの市場向けにソリューションを提供することや、コア技術である高性能フェライトの開発・生産拠点として山陽工場に新体制の整備を進めてまいりましたが、更なる市場の落ち込みなどから、計画を大幅に下回りました。2012年度におきましても、欧州の債務危機などによる世界経済の減速なども加わり当社の関係する市場環境は、更に悪化し当初計画の到達は困難な状況です。しかしながら、在庫の削減や生産革新、コストダウンなどを推し進め、損益分岐点は確実に下がってきております。新製品の投入と相まって、市場の変化にも対応できつつあり、本年上期を底に上昇に転じるものと考えております。

2013年度から始まる新事業年度におきましてはSTART10の反省を踏まえ、このような環境の中でも柔軟に対応出来るべく新たな中期事業計画(2013-2015)を策定致しました。

2. 中期事業計画(2013-2015)

1) 方針について

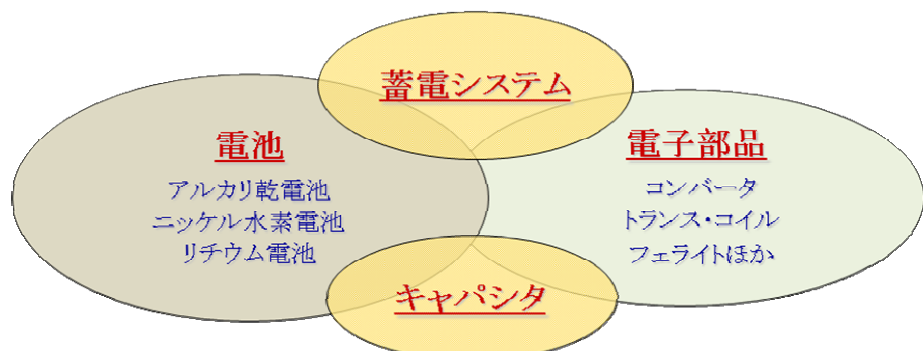
東日本大震災を契機とした事業環境の変化は、家庭やオフィス・工場などそれぞれで「電気を創る(高効率エネルギー変換)、蓄える(蓄電)、賢く使う(省エネ)」時代の到来を招き、社会的インフラとしてスマートグリッドの整備も進行しております。このような事業環境の変化とこれまで当社グループが掲げておりますグループミッションを遂行するとともに、新たにこうした時代に求められる高効率で安全な製品の提供のため「様々な形で貢献できるエネルギー・マネジメントメーカー」を目指すことといたしました。

\* グループミッション: 「FDKグループは、お客様にご満足いただける電池、電子部品の開発・供給により3E社会を実現するエレクトロニクスの発展に貢献します(3E:環境保全・省エネルギー・経済発展)」

2) ビジネスドメイン

電池・電子部品の既存事業と、それぞれの保有技術のシナジーから生み出される「新開発事業(蓄電システム・キャパシタ)」を新たなビジネスドメインに加え、それぞれのドメインを事業環境の変化に応じて柔軟に組み合わせ、計画実現へ対応して行きます。

ビジネスドメイン  
(イメージ)



### 3) 計画の骨子

既存事業の強化に加え、今後の社会における蓄電システムニーズに応えるため、電池・電子部品のシナジーにより新たに家庭やオフィス・工場などに向けた社会的インフラ機器・装置への製品投入を積極的に行ってまいります。

#### ① 事業領域拡大による成長戦略

- ・保有技術のシナジーを活かした新製品の市場投入
- ・コア技術（素材技術）を活かした高付加価値製品の創造
- ・リチウムイオンキャパシタの新製品開発と量産拡大
- ・新市場に向けたマーケティング強化

#### ② コスト競争力強化

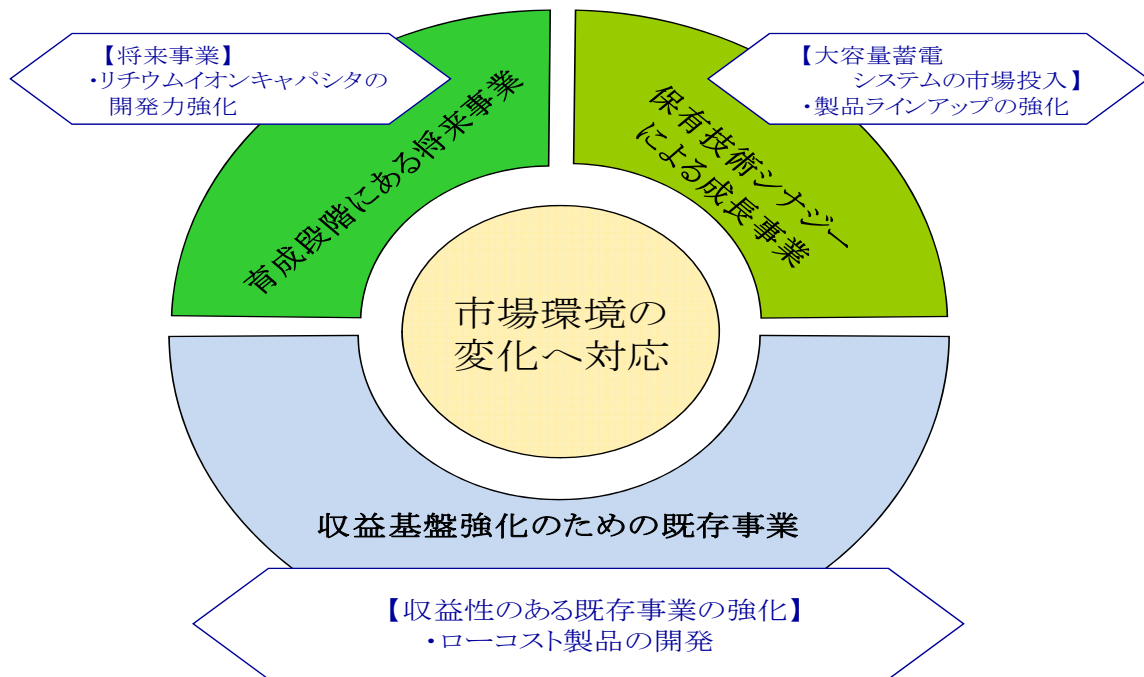
- ・無人化を目指した製造ラインへの挑戦
- ・既存事業のローコスト製品開発による収益確保
- ・製品性能・機能の差別化へ向けた生産技術力強化
- ・海外拠点の有効活用と人材リソースのグループ内再配置

#### ③ アライアンスの推進

- ・エネルギーマネジメント分野の強化

### 4) 事業構造

既存事業において開発体制・原価構造の見直しを進め収益基盤を強固なものにするとともに、新規市場へ向けたシナジー製品の拡充を進めてまいります。



### 5) 経営数値目標

中期事業計画（2013-2015）の最終年度である2015年度の経営数値目標は、

**連結売上高 1,100億円**

**営業利益率 7%超**

を目指し、事業運営を推進してまいります。

以上